

修証義 第三章 受戒入位

しゆしようぎ だいさんしよう じゆかいにゆうい
つぎ ふか ぶつぼうそう さんぼう うやま たてまつ

次には深く仏法僧の三宝を敬い奉るべし、
しよう か み か さんぼう くよう うや

生を易え身を易えても三宝を供養し敬い
たてまつ ねご さいてんとうどぶつそ

奉らんことを願うべし、西天東土仏祖
しようでん ところ くぎようぶつぼうそう

正伝する所は恭敬仏法僧なり。
も はくふくしようとく しゆじよう さんぼう みようじな

若し薄福少徳の衆生は三宝の名字猶お
き たてまつ いか いわん き え たてまつ

聞き奉らざるなり、何に況や帰依し奉るこ
え いたず しよひつ おそ さんじん

とを得んや、徒らに所逼を怖れて山神
きじんとう き え あるい げどう せい た

鬼神等に帰依し、或は外道の制多に
き え なか かれ その き え よ

帰依すること勿れ、彼は其帰依に因りて
しゆうく げだつ な はや ぶつぼうそう

衆苦を解脱すること無し、早く仏法僧の
さんぼう き え たてまつ しゆく げだつ

三宝に帰依し奉りて衆苦を解脱するのみ

に非ず菩提を成就すべし。

あら ぼだい じょうじゆ そのき えさんぼう まさ じょうしん もつば あるい

其歸依三宝とは正に淨信を専らにして或

によらいげんざいせ あるい によらいめつご

は如来現在世にもあれ、或は如来滅後に

がつしやう ていざ くち とな いわ

もあれ、合掌し低頭して口に唱えて云く、

な むきえぶつ な むきえほう な むきえそう

南無歸依仏、南無歸依法、南無歸依僧、

ほとけ こ だいし ゆえ き え ほう

仏は是れ大師なるが故に歸依す、法は

りようやく ゆえ き え そう しょうゆう

良薬なるが故に歸依す、僧は勝友なるが

ゆえ き え ぶつでし かなら さんき

故に歸依す、仏弟子となること必ず三歸

よ いざ かい う かなら さんき

に依る、何れの戒を受くるも必ず三歸を

う そののちしよかい う しか

受けて其後諸戒を受くるなり、然あれば

すなわ さんき よ とくかい

即ち三歸に依りて得戒あるなり。

このき え ぶつぼうそう くどく かなら かのうどうこう

此歸依仏法僧の功德、必ず感応道交す

るとき成就するなり、設たい天てん上人じょうにん地ぢ獄ごく

きちく

いえど

かんのうどうこう

かなら

鬼畜きちくなりと雖いも、感か応ん道どう交こうすれば必かならず

きえ

たてまろ

すで

きえ

たてまろ

ごと

帰依きえし奉たてまろるなり、已すでに帰依きえし奉たてまろるが如ごとき

しょうしやうせせぜいぜいしよしよ

ぞうちやう

かなら

しやつ

は生生世世在在处处かならに増長ぞうちやうし、必かならず積しやつ

くるいとく

あのくたらさんみやくさんぼだい

じやうじゆう

功累徳くるとくし、阿耨多羅三藐三菩提あのくたらさんみやくさんぼだいを成就じやうじゆう

するなり、知しるべし三帰さんきの功徳くどく其れ最尊さいそん

さいじやうじんじんふかしぎ

さんき

くどくそ

せいそん

最上さいじやう甚深じんじん不可思議ふかしぎなりといふこと、世尊せいそん

すで

しょうみやう

しゆじやうまさ

しんじゆ

已すでに証明しょうみやうします、衆生しゆじやう当まさに信受しんじゆすべ

し。

つぎ

まさ

さんじゆじやうかい

う

たてまろ

次つぎには応まさに三聚淨戒さんじゆじやうかいを受け奉たてまろるべし、

だいいちしやうりつぎかい だいにしやうぜんぼうかい だいさんしやう

第一だい攝律儀戒いちしやうりつぎかい、第二だい攝善法戒にしやうぜんぼうかい、第三だい攝

しゆじやうかい

つぎ

まさ

じゆうじゆうきんかい

う

衆生戒しゆじやうかいなり、次つぎには応まさに十重禁戒じゆうじゆうきんかいを受け

たてまつ
奉るべし、第一不殺生戒、第二不偷盜

かい だいさんふじやいんかい だいし ふもうごかい
戒、第三不邪淫戒、第四不妄語戒、

だいがこ ふ こ しゆ かい だいろくふせつか かい
第五不酤酒戒、第六不說過戒、

だいしちふじさんきたかい だいはちふけんほうざいかい
第七不自讚毀佗戒、第八不慳法財戒、

だいくふしんいかい だいじゆうふほうさんぼうかい
第九不瞋恚戒、第十不謗三宝戒なり、

じょうらいさんきさんじゆじようかい じゆうじゆうきんかい こ
上来三帰三聚浄戒、十重禁戒、是れ

しよぶつ じゆじ ところ
諸仏の受持したまう所なり。

じゆかい ごと さんぜ しよぶつ しよう
受戒するが如きは、三世の諸仏の所証な

あのくたらさんみやくさん ぼだい こんごう ふ え
る阿耨多羅三藐三菩提 金剛 不壊の

ぶつか しよう たれ ちにん こんぐ
仏果を証するなり、誰の智人か欣求せざら

せ そんあき いっさいしゆじよう ため しめ
ん、世尊明らかに一切衆生の為に示しま

しゆじようぶつかい う すなわ しようぶつ
します、衆生仏戒を受くれば、即ち諸仏

の位に入る、位大覚に同うし已る、真に
是れ諸仏の子なりと。

諸仏の常に此中に住持たる、各各の方面

に知覚を遺さず、群生の長えに此中に

使用する、各各の知覚に方面露れず、是

時十方法界の土地草木牆壁瓦礫皆

仏事を作すを以て、其起す所の風水の

利益に預る輩、皆甚妙不可思議の仏化

に冥資せられて親き悟りを顕わす、是を

無為の功德とす、是を無作の功德とす、

是れ発菩提心なり。

年 月 日

氏名

謹写